



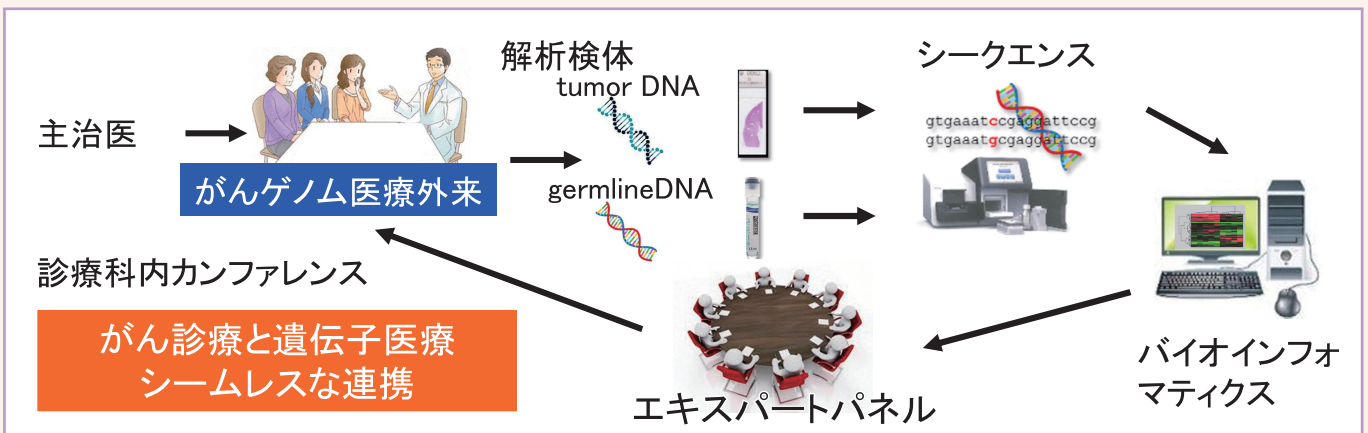
がんゲノム医療について

「がんゲノム医療外来」開設のお知らせ がんゲノム医療センターディレクター 平沢 晃



「がんゲノム医療外来」は複数のがん遺伝子パネル検査を導入しており、当外来は院内のみならず、広く院外からも紹介を頂いております。多職種からなるエキスパートパネルを毎週定時に開催して活発な議論を行います。主治医の先生にもwebツールなどを通じて可能な限りご意見を頂きreal worldでの解決を目指します。本外来受診するためには病理組織が必須となりますので、医療機関からの紹介が必要です。

さらにがんのみならず、がん以外の遺伝性疾患も対象にした「遺伝カウンセリング外来」も行っています。これにより生殖細胞系列バリエーションの存在が推定される場合はシームレスな対応が可能となっています。特に遺伝性腫瘍を同定することでご本人のみならず血縁者のがん予防に貢献することが可能となる場合がありますことから、安心できるゲノム医療を展開することを目指しています。



「がんゲノム医療センター」設立のお知らせ がんゲノム医療センター長 川上 公宏

がんは細胞内の遺伝子変異が蓄積することにより起きる病気です。同じがんの種類でも遺伝子解析を行うと個性があることが解っており、遺伝子解析技術の飛躍的な進歩により、それらの変異が短時間で解析できるようになったため、日常の診療に利用できる様になりつつあります（臨床的・シーケンス）。現在この臨床的・シーケンスの有用性が期待されるのは、①標準治療に不応となったがん②原発不明がん③標準治療法が無い希少がんです。

また、将来的には、患者毎に適した医療を提供する診療（テーラーメイド診療）が行えるようになる可能性もあります。香川県の基幹病院である当院でも、病院全体としてそれに対応するため平成30年8月20日に香川県立中央病院がんゲノム医療センターを設立しました。



糖尿病教室の

ご紹介

③

管理栄養士 高木 千晴
歯科衛生士 吉田 朱加里



かがわん栄養士

今回の糖尿病教室の説明は、管理栄養士と歯科衛生士が行います。管理栄養士は「糖尿病になっても楽しく食べるコツ」というテーマで1時間の講義を担当しています。糖尿病において食事療法は治療の基本です。糖尿病教室では、まず、自分の適正な体重や1日の総エネルギー量の求め方、食品交換表の活用方法など基本的なことをお話しします。それから、実践的な内容として、間食・外食の食べ方や減塩について等、患者さんが気になることについても具体的に説明していきます。

糖尿病の食事療法で食べてはいけないものではなく、重要なポイントはバランスと量です。これは、健康な食事の第一歩であり、他の病気の予防にもなるため、ご家族みなさんで取り組んでいただきたいものです。

歯科衛生士は「糖尿病と歯周病の関わり」について歯の模型と歯ブラシなどを使って実践的な指導をさせていただいています。糖尿病は様々な合併症を引き起こすといわれており、歯周病もその一つです。歯周病による局所の炎症因子が血糖コントロールに悪影響を及ぼし、健常な人に比べてリスクが2～3倍高くなります。糖尿病患者は歯周病にかかりやすく重症化しやすいのが特徴です。一方で、歯周病治療をすると血糖コントロールが改善するという研究成果も報告されています。ぜひ糖尿病と歯周病の関わりを理解していただき、セルフケアを行いながら歯周病予防に気をつけていただけたらと思います。

また、かかりつけ歯科をつくって定期健診を受けることも大切です。



よ防さん

認定看護師の

ご紹介

認知症看護認定看護師 藤井 智子

認知症とは、何らかの脳の障害により日常生活や社会生活を送ることが困難になった状態です。認知症の方は環境の影響を受けやすく、暮らす場所が変わったり、周囲の人との関わり方によって、不安や混乱など様々な症状が出現することがあります。このような認知症の方が身体疾患のために入院した時、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられるよう多職種チームによる介入や、院内デイケアの導入など取り組みが行われています。当院でも2018年3月に医師や看護師、臨床心理士、社会福祉士、作業療法士などで「認知症ケアチーム」を結成し、週に1回チームが病棟を巡回し、認知症ケアの実施状況の確認



や、ケアの質向上のためにメンバーがそれぞれの専門的な立場で助言を行っています。私は、認知症看護認定看護師としてチームの活動に参加し、認知症の進行とともに不安や苦痛を伝えるのが困難な認知症の方の立場に立って不安や混乱の原因を探り、認知症の方にとって安心して過ごせる環境調整を提案しています。チームの目指す「認知症の方や家族はもちろん、認知症の方に関わる医療者すべての人が笑顔になるケアの提供」の実現を目指し、多職種のスタッフと一緒に活動していきたいと思っています。



医療セミナーを開催します

■ 日 時：平成30年10月25日（木）
19時00分～

■ 場 所：香川県立中央病院1階講堂

■ テーマ：「肺がんについて」

■ 講師：呼吸器外科 主任部長 青江 基

■ 日 時：平成30年11月29日（木）
19時00分～

■ 場 所：香川県立中央病院1階講堂

■ テーマ：「がんゲノム医療とがん遺伝相談外来について」

■ 講師：がんゲノム医療センター医師 平沢 晃

8/4
(土)

D-MAT大規模災害訓練をしました



8月4日南海トラフを震源域とする大規模地震を想定した防災訓練を実施しました。当院は、県内で指定されている災害拠点病院の中でも唯一の基幹災害拠点病院です。地域の救護活動の拠点として、災害発生時には入院患者等の安全を確保すると共に、被災地から重症患者受け入れの役割を担っています。

今回の訓練では平日の夜間に地震が発生したと想定し、暫定の対策本部を立ち上げ、院内の被害状況を確認し、災害対策本部への引き継ぎを行いました。その後、被災した患者を受け入れる為のトリアージ、治療、搬送の訓練を実施しました。

暫定対策本部から災害対策本部へと業務を引き継ぐ訓練は初めて行ったので、改善点などが確認でき、有意義な訓練となりました。

また、訓練当日は、内閣府主催の大規模地震時医療活動訓練も同時に行われました。南海トラフ地震により、四国四県と大分県、宮崎県に甚大な被害が発生した想定のもと、当院にも防災ヘリで小豆島から患者が搬送され、治療を行うなど内閣府の訓練にも参加しました。

今後いろいろな災害を想定した訓練を実施し、職員のスキルアップ、災害への対応力の向上へとつなげていきたいと考えております。

中央NEWS

高校生の医師体験講座を開きました

8/2
(木)

消化器・一般外科 主任部長 大橋 龍一郎・総務企画課

第8回医師体験講座を開催し、高校生12名が参加しました。

内容は、体験学習（手術室での鶏肉を使った手術体験、病院食の試食、BLS体験、採血・気管内挿管・内視鏡のシミュレーション）、見学（病棟、中央検査部、病理部、放射線部、ヘリポート、救急部、薬剤部）、医師との座談会でした。

参加した高校生は、慣れない環境から初めはとても緊張していましたが、当院の医師やコメディカルから優しく丁寧な指導、説明をうけて次第にほぐれていき、体験講座に集中するようになりました。

特に最後の医師との座談会においては、医師を目指したきっかけや仕事のやりがいなど、なかなか聞くことのできない医師の本音を聞くことができ、医師を目指す決意を新たにしている高校生もいました。

参加した高校生の医療の道に進みたいという気持ちを少しでも後押しできていたらうれしく思います。



中央NEWS

医療セミナーを開きました

8/30（木）当院講堂において、「腹腔鏡下の直腸がん手術について」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は大橋龍一郎主任部長、講演は消化器・一般外科の矢野匡亮部長でした。参加者は医師等43名で、院外からも17名の先生方にご出席いただきました。

また、9/27（木）当院講堂において、「Kagawa Style!CTデータの利用で始める骨粗鬆症の地域連携治療体系」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会是高口浩一院長補佐、講演はリハビリテーション科の本田 透部長でした。参加者は医師等35名で、院外からも34名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役に立つ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



「肝臓病教室に参加しませんか」

病 院 栄 養 士 の お 仕 事

栄養部 技師長 加村 晴美

当院では、20年以上前から病態栄養教室を開催しています。初めは医師の講話と調理実習がメインでしたが、時代に合わせて内容も変化してきました。今では、肝臓病教室をチーム（医師、看護師、薬剤師、理学療法士、臨床検査技師、肝炎相談員、管理栄養士）で取り組み、昨年からは公開講座として開催しています。

今年度は下記のとおり開催します。医師をはじめ、多職種からいろいろなアドバイスがありますので、ぜひともご参加ください。



- ① 日 時 平成30年11月15日（木）14:00～15:30
- ② 場 所 香川県立中央病院 1階 講堂
- ③ 内 容 基調講演「肝がんにならないためにーC型肝炎と脂肪肝の最新の治療ー」
院長補佐 肝臓内科 高口 浩一
各職種から「正しい薬の飲み方」「脂肪肝を改善する生活」「脂肪肝を改善する運動」
「脂肪肝を改善する食事」
- ④ その他 参加費は無料。駐車料金はご負担ください。（30分無料の後30分ごとに100円）
準備の都合上、なるべく参加申し込みを11月12日（月曜日）までに下記までお願いします。
TEL 087-811-3333 内線 2201 肝炎相談員 森田・浦尾
内線 2402 栄養部 肝臓病教室担当

中央コラム

お通じにまつわるうんちく話（その5）

消化器内科 部長 田中 盛富

今回も、わたしたちの消化管に住む数百兆個の腸内細菌の日常生活を考えてみましょう。

わたしたちの体の細胞の中では、糖分などの炭水化物を酸素と反応させてエネルギーを得ています。呼吸とは、空気中の酸素を取り込んで二酸化炭素を出すことだけでなく、広い意味では、この細胞の中の反応も含まれます。

一方、腸内細菌のほとんどは、生きていく上で酸素を必要としない細菌（嫌気性菌）です。むしろ酸素は彼らにとって毒であり、酸素を避けて生活しています。酸素がなくても発酵によりエネルギーを得ており、発酵が彼らにとっての「呼吸」のようなものです。しかし、嫌気性菌の中には酸素があっても平気な種類もあります。

善玉菌の代表のような乳酸菌とビフィズス菌を例にとると、乳酸菌は酸素があっても平気な細菌で、ビフィズス菌は酸素があると生きていけない細菌です。私たちの消化管では比較的酸素のある小腸に乳酸菌は住むことができますが、ビフィズス菌は酸素のない大腸にしか住めないようです。

ビフィズス菌入りの製品を、無酸素状態の部屋で食べる必要はないと思いますが、そんな違いがあることを知っていてもよいかもしれません。

次回も腸内細菌についてお話しようと思います。



講演会と交流会を開催します

（香川県立中央病院肝臓病患者会主催）

- 日時：平成30年10月28日（日）10:00～12:00
- 場所：香川県立中央病院1階講堂
- 内容：当院肝臓内科高口医師による講演会の他、デザイナー富田紀久子さんによる紙芝居「カリコと少女」が行われます。患者会会員以外の方々もお気軽にご参加下さい。



医師の人事異動

転入 → (8月1日付)



谷本 竜太

泌尿器科

岡山大学出身
（平成13年卒）
趣味／テニス

香川県の泌尿器科医療のレベルアップに貢献できるよう努めてまいります。